

福島第一原子力発電所構内の線量状況について

2020/10/29

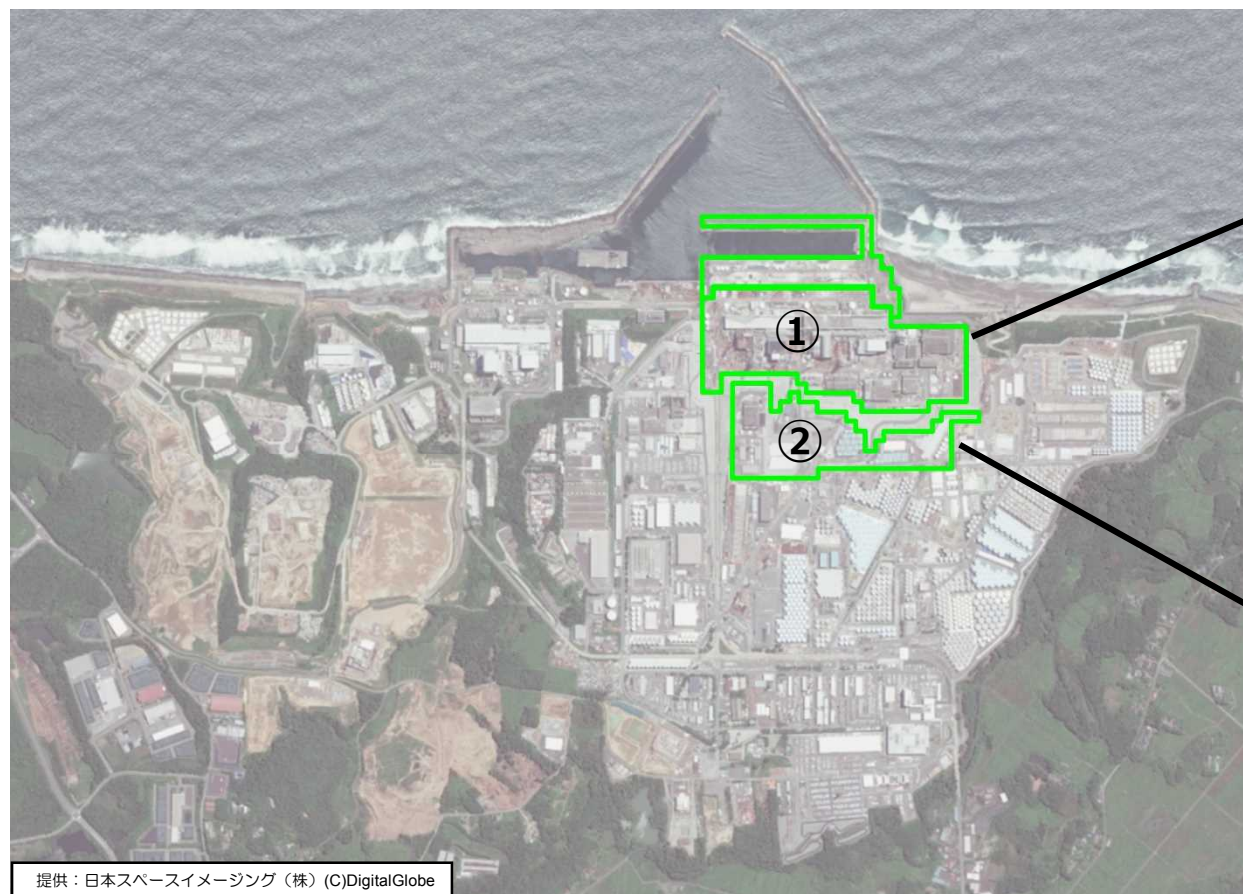
TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 概要

福島第一原子力発電所構内の作業環境を改善するために、多くの作業員が作業するエリアから、順次、表土除去、天地返し、遮へい等による線量低減を実施している。

これまで線量低減を実施したエリアについて、定期的に線量状況を確認しており、今回（2020年度上半期）、以下のエリアの線量状況を確認した。



線量測定箇所①

1～4号機周辺
(2020.8 測定)

※前回、2019.12 測定

線量測定箇所②

地下水バイパスエリア
(2020.6 測定)

※前回、2018.7 測定

2. 1～4号機周辺（線量測定箇所①）の線量低減状況及び線量分布

1～4号機周辺の平均線量率は、下表に示す工事等の進捗により、前年度下半期測定値と比べて2.5m盤は40～50%程度、8.5m盤は15～30%程度低下している。

■ 平均線量率 < 2.5m盤 >

単位：[μSv/h]

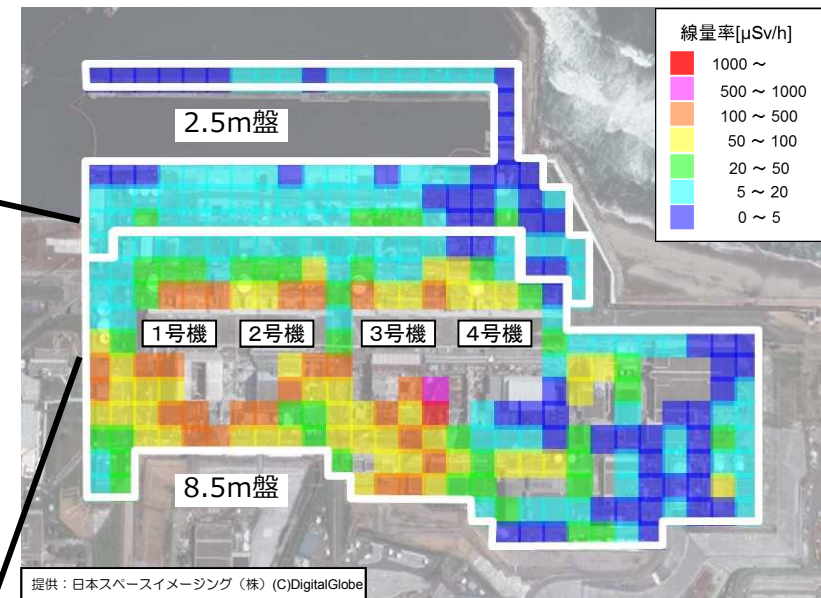
	胸元高さ ※1	地表面※2 (コリメート)	線量低減に寄与した 主な工事
2017年度 (2018.2)	20	4.5	・ フェーシング工事 (2015年度～)
2018年度 (2019.2)	17	3.6	・ 循環水ポンプ周辺の瓦礫撤去等 (2015年度～2019年度)
2019年度 (2019.12)	15	3.0	・ 3号機T/B上部の瓦礫撤去 (2019年度～2020年度)
2020年度 (2020.8)	9	1.4	

< 8.5m盤 >

単位：[μSv/h]

	胸元高さ ※1	地表面※2 (コリメート)	線量低減に寄与した 主な工事
2017年度 (2018.2)	140	61	・ 1～4号機逆洗弁ピット周辺の フェーシング(2018年度～)
2018年度 (2019.2)	122	41	・ 防潮堤設置工事に関わるフェーシング等 (2019年度～)
2019年度 (2019.12)	110	36	・ 1号機北側純水タンク周辺の フェーシング (2019年度)
2020年度 (2020.8)	94	26	・ 2～3号機間道路のフェーシング (2019年度～)
			・ プロセス主建屋周辺のフェーシング (2020年度～)
			・ 3号機T/B及びRW/B上部の瓦礫撤去 (2019年度～2020年度)

■ 線量分布 (30mメッシュ：胸元高さ)



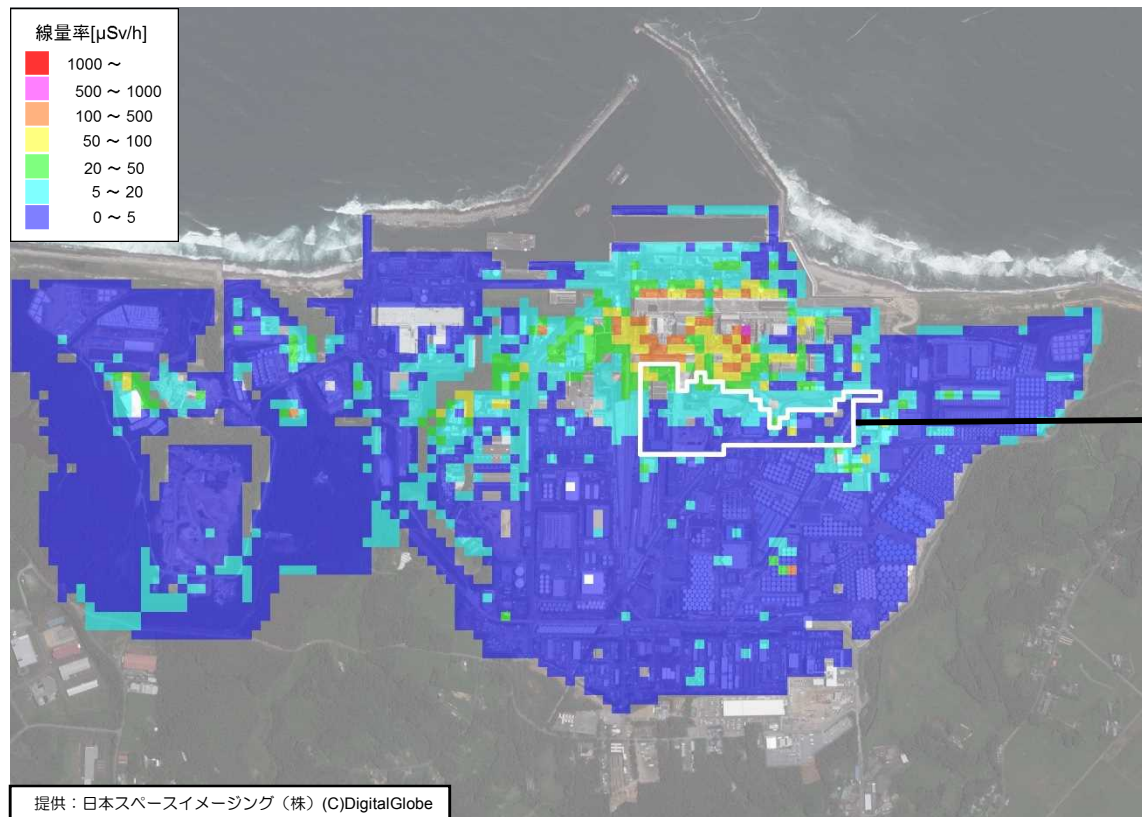
※1 胸元高さ：地表面から1m高さ

※2 地表面（コリメート）：プラントからの散乱線等の影響がある場所について、線量低減効果を確認するため、地表面（地表面から1cm程度）をコリメートして測定。

3. 1～4号機周辺以外（線量測定箇所②）の線量状況及び構内全域の線量分布 **TEPCO**

- 地下水バイパスエリア（線量測定箇所②）は、建屋側からの線量寄与が減ったことが要因で、線量率が低下したと考えられる。（胸元高さ：10.7→8.8 μ Sv/h）

線量分布（30mメッシュ：胸元高さ）



線量測定箇所②

- ・エリア名称：地下水バイパスエリア
- ・平均線量率：
（胸元高さ）8.8 μ Sv/h（2020.6）
[前回：10.7 μ Sv/h（2018.7）]

4. 構内主要道路の線量状況 – 構内主要道路の走行サーベイ結果 – **TEPCO**

構内主要道路の線量分布は、年々、低線量側にシフトしている。特に2.5m盤のフェーシングや防潮堤設置工事に関わるフェーシング、3号機T/B上部の瓦礫撤去により、タービン建屋東側エリアの線量率が低下している。（図中の黒点線の箇所が、黄・緑→水色、水色→青に変化）

<2018年度 第2四半期> (2018.8 測定)
 →
 <2019年度 第2四半期> (2019.8 測定)
 →
 <2020年度 第2四半期> (2020.8 測定)



※：2019年度 第2四半期の当該の道路については、排気筒解体作業との工事干渉により測定を省略。